

寺
ごよみ

十 月

一日 板屋お講
五日 清掃奉仕
一〇日 お道具磨き
一五日 魚津報恩講
一六日 三日市お講
一七日 米とき・聞法会
一八日 お華束、清掃

報 恩 講

一九日 午後一時半
午後七時
二〇日 午前十時
午後一時半

二二日 富山・滑川報恩講
二三日 経田柳沢窪野田家
報恩講
二五日 東狐・青木報恩講
二九日 下飯野・上飯野・
高畠・芦崎報恩講
三〇日 板屋報恩講

寺 報

善 巧

発 行

☎ 938-0862 富 山 県
下新川郡宇奈月町浦山497
白 雪 山 善 巧 寺
T E L (0765) 65-0055
F A X (0765) 65-0975
メー ル zengyou@box.email.ne.jp



ステンレスに修繕された雨どい

報 恩 講

十月十九〜二十日
十一月四〜五日

空 華 忌

前・前々住職回忌法要

私は、善巧寺様の若院さんでした、故雪山隆弘氏の実父興弘氏の従兄弟に当る者として、興弘氏の母親が姉、私の母が妹の間柄。
こう申せば、少しは輪郭が浮かんで来ましたがナ。
故興弘氏は従兄弟頭で、私が一番末で十五歳違い。
若院さんは昭和十五年生で私より十五若く、私を呼ぶのに、オッチャンと呼ぶか、兄ちゃんと呼ぶか、その時々第でした。
昭和十七年春、私は龍大予科へ入学、父の薦めで一年間、既に厳しい寮生活を送りました。一年を無事に終え、サテこれからどうするか、思索していました。ヨスミの常見寺の伯父から電話がかかり、その内容とは、
「ウチの息子三人とも召集で駆り出され、皆外地や。寺は無人なので、あんたがこの息子を、用心棒代りに、ウチから学校へ通わせたらどういや……？」
本人には何の相談もなく、

洗面器の底のさくらの絵

両者は一瞬で了解したとか。その春、私は行李担いで先ずはご挨拶に参上です。今日からお世話になります。どうぞよろしゅうに。
常見寺には、可愛い目玉のヤンチャ小僧が二人で、兄貴の明弘は八歳で、弟の隆弘は四歳位でしたかナ。
実は、ここで、世にも不思議なことに出会ったんですナ。伯父は新参の私のために、洗面器を新調してくれました。翌朝、まっ白な洗面器のぞいたらその底に、一本の桜の小枝が画かれ、余白には散る桜残る桜も散る桜の一句が添えてあったのです。私はこれで洗面すること一年半、海軍へ入隊、外地へ出たんです。
時は流れて四十有余年、平成二年の秋頃でしたか、若院さんの遺稿集の扉で、この画と句を見た途端に、五十年昔の常見寺の井戸端が目に見え、思わず絶句!!

大阪・阿倍野蓮光寺

前住職 森 正隆師



空華忌講話

(平成十二年)

本願寺派勸学

梯實圓和上(六)



他力不思議に入りぬれば
義なきを義とすと
信知せり

引く足も 称ふる口も
おがむ手も 弥陀願力の
不思議なりけり
という歌があります。浄土
真宗の他力というところを見
事に詠われています。親鸞
聖人は他力のことを「他力
不思議」といわれています。
『正像末和讃』に、
聖道門の人はみな
自力の信をむねとして、

という和讃がございます。
他力は不思議の世界だとい
われるのです。自分の判断
力と行動力をたのみにする
ことを自力といいます。が、
それは人間の思い計らいを
本体としていますから、思
議の世界です。それに対し
て阿弥陀さまの本願のみ言
葉を疑いなく受け容れ、そ
の仰せに順って、自分の生
きる意味と方向を思い定め、
如来のおはからいにまかせ
て生きることが他力不思議
といわれるのです。それは
人間の思議を超えた領域を
生きていくからです。
ですから浄土真宗の教え
は、私たちの日常的なもの
の考え方を逆転し、今まで
とはひと味もふた味も違っ
た、生きることの意味と死

ぬことの意味とを私たちに
与えてくれる教えなのです。
その意味では、本願を信ず
るということは、私たちの
心に阿弥陀如来さまの思し
召しに従って生きようとす
る、新しい精神の秩序を確
立して下さることであると
いえましよう。それが仏さ
まに救われたということの
意味なんです。いいかえ
ら、自分中心の生き方から、
阿弥陀さまを中心にして、

私どもは仏法を聞きにお寺へ参ろうという心は持ち合わせていない

阿弥陀さまを主人公にして
生きていくような、そうい
う生き方に徐々に転換する
んです。

こういうと随分難しいこ
となのですが、たとえば
この本堂に入ったならば主
人公は阿弥陀さんでしょう。
私の前に如来さまが立つて
おられるのではなくて、如
来さまの前に私が座らせて
いただいているのです。こ
れは決して同じことをいっ

ているではありません。
本堂では主客が変わるん
です。それに応じてお参りを
している人の意識も微妙に
変わっているはず。こ
こ本堂は私ども人間が主人
顔をしたらいけないところ
なのです。

さて、初めにあげた歌で
すが、ここに「弥陀願力の
不思議」という言葉が使っ
てありますが、これが本願
他力というのは不思議の世

お寺に参ってきたのは自分
の足で参ってきた、私ども
はそうしか考えられません。
しかしよくよく聞かせい
ただくと、実はそうじゃな
くて、どうぞ真実を聞いて
くれよと願われた如来さま
の願力に促されてお参りす
る身になったんだという
のです。

私どもは、もともと仏法
を聞きにお寺へ参ろうとい
うような殊勝な心は持ち合

界、人間の思議を超えた領
域ですといわれているの
です。それはどのようなこ
とかといえますと、まず
「引く足」というのはね、
お寺へ足をこぶことです。



わせていないといわれてい
ます。お忙しい一日のお仕
事を終わって、こんな夜に、
お寺に参ってくるというこ
とは大変なことであつた
と思います。今日は土曜日だ
から、テレビでは、漫才や
落語やらいろんなおもしろ
い番組が結構ありますし
からね。それをやめて、お
寺へあんまりおもしろくも
ない話を聞きに来るとい
うのは、なかなかその気には

前門さまご葬儀



前門様は善巧寺にも
お出ましくございました。
昭和五十七年秋、
勤修された宗祖ご遠忌
に、ご親修をいただき
ました。前門様お越し
とあつて本堂は満堂に。
前門様におかみそりを
いただいた方々は百人
を超えました。ホテル
での祝賀会では、雪ん
子劇団の演じる「うち
のとうちゃんえらいん
だ」をにこやかにご覧
くださった笑顔が忘れ
られません。境内には、
お手植えの記念樹が大
きく育っています。

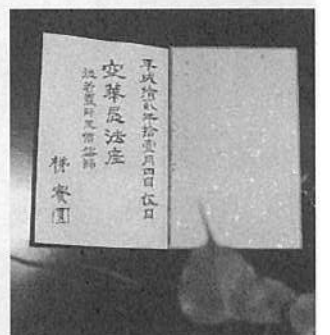


去る六月十四日（金曜日）
ご遷化された第二十三代宗
主勝如上人（しやうによしよ
うにん／大谷光照前門様）
のご葬儀が、七月十八日午
後一時より、本願寺総御堂
において厳修されました。



なれないものですよ。そこ
へもつてきて、お寺に行っ
たら嫌なことばかり説教す
る。「人間は死ぬものであ
る（笑）、それも明日も知
れない「いのち」であるな
んて実にいやーなことを言
う。そんなことは解ってい
るけど、思わなんようにし
ているのに思い出させよ。
そればかりではない、「お
互いに罪の深いものである」
なんてこと言われる。それ
は、生きていくにはいろい
ろと罪もつくるが、そんな
こと考えだしたら頭がおか
しくなるから、考えんよう
にしている。それをお寺に
行ったら思い出させよ。
それで、お寺というところ
は、いやーな所だというよ
うに、大体お寺というのは
人気のない所です。

大体人間というのは、ほ
んまのことはあんまり聞き
たくないんです（笑）。真
実は、愚か者にとつては残
酷すぎるといったヨーロッ
パの哲学者がいましたけれ
どもね、そうでしょうな。



嘘をいっただけ怒りますけれ
どもね、では貴方自身につ
いて、何もかもほんまのこ
と知らせてあげようかと言
われたらちよつと困るので
はないですか。私たちは、
適当に嘘の真綿にくるんで
もらわなきゃ生きていけな
い。そういう弱い心を持つ
てるんじゃないですか。
お寺へ参つて、ズバリとほ
んまのことをいわれるのが
いやなんです。だから、お
経には法を聞く人が少ない
事を不思議だとはいわれ
ていません。むしろ、一人
でも法を聞く者がいること
が不思議だと書いてあります。
今日は随分沢山の方がお参
りですが、これはまことに
不思議ですな、まさに末法
の不思議ですよ。これは
（笑）。

とにかく私どもは、真実
の仏法を聞かせていただき
うというような殊勝な心は、
もともと持ち合わせていな
い。そんな私に仏法を聞か
せていただくという心が
起きてきたことが不思議な
のです。これは私に、どう
ぞ真実の言葉を聞いてくれ、
という仏さまの切ない願い
が、私を揺り動かして、聴
聞の場に押し出してください
ているのに違いありません。
それ
でなければ私が聞きにく
くはない。そう気づいた
人は、その瞬間に如来さま
に遇うのです。お寺に参つ
て初めて如来さまに出会
うんじゃない。ましてお浄土
へ往つて初めて如来さまに
遇うのじゃありません。お
寺に参ろう、法を聞こうと
思ったその瞬間に、これは
我ならぬ力が私を聞法の場
に押し出してくださる
ことだと気づいたときに、
他力不思議を実感し、如来
に遇うのです。

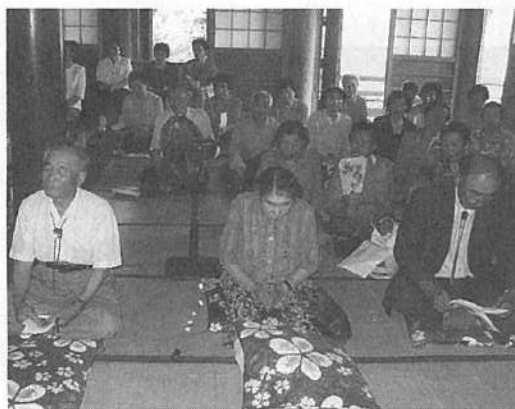
（次号が最終回となります）



青年盆会—相変わらず賑やかに



永代祠堂会

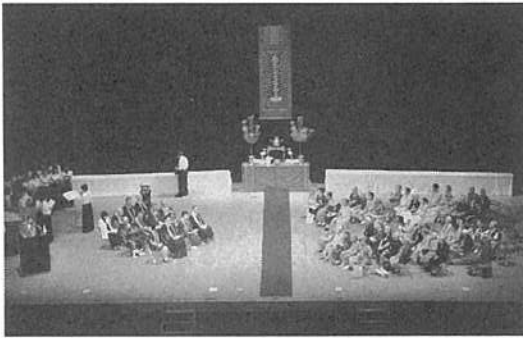


善巧寺の夏

仏教婦人会－はじめての試み、温泉での研修会
永代祠堂会、青年盆会に盆踊り
老若男女ようこそようこそ



仏婦研修会－講師那須野浄英先生を囲んで



高田派専修寺
常磐井和子お裏方様

蟬の声に代わって、足もとの虫の声がにぎやかになってまいりました。

この度は御遠方から、たくさんのチビッ子さんを御引率、それもきびしい訓練をなさっての上。その御成果を拝見して、ほんとうに嬉しく、感動いっぱい、御礼申し上げます。心から御礼申し上げます。

「よかったよかった、とてもすばらしかった」の声が押しよせるように伝わってまいります。心から御礼申し上げます。

雪ん子劇団 三重、宇奈月、野外公演！



高田派本山専修寺、おあさじにお参り



西方寺婦人会
高田久子様

婦人大会でこどものミュージカルを見せていただけるなんて本当に良かったです。昔はお寺の寺子屋、私たちの時代は日曜学校、色々楽しかった思い出がよみがえります。

機会を見て善巧寺さんを訪ねたい気持ちになりました。



和子お裏方、まや新お裏方とスタッフ



まことの保育大学講座ーセレネにて

二八日	二七日	二五日	二二日	二一日	一九日	一八日	一六日	一二日	一一日	七日	五日	四日	二日	一日
浦山新報恩講	石田報恩講	析沢報恩講	中陣報恩講	浦山新お講	出報恩講	中新報恩講	上野報恩講	隆弘住職十三回忌	釈俊之住職七・釈	午後	空華忌十時	七時	空華忌一時半	お華束、清掃
													米とぎ	愛本新お講



十一月





●みんなに知ってほしい
仏前結婚式
(富山市・山科博子
25歳)

両親から命を受けてから初参式、日蓮学校、そして「雪子劇団」と毎週お寺に通った。そして、今もわが家のようにお寺に来て、お寺の娘のような顔をしている。だからお寺で結婚式を挙げたかった。



しかし、両家の都合で地元での挙式は当初と参列者はきつとま無理だと思われた。でも、お寺のご配慮で、両親と近所の方に見守られ、母のように育てていただいた女先生(坊主さま)に司婚していただき、仏前結婚式を挙げることができた。緊張するかと思いましたが、いつもの場所ですべての仏さまの前でなせかとも穏やかな気持ちだった。確かに私はお寺の娘ではないが、「仏の子」である。「仏さまの娘」だと思

った。また、今までお世話になった方々への報告式も、披露宴会場の都合から仏前式は無理だとあきらめていたが、お寺の皆さんの協力によりホールロビーへ仏さまにおでましにいただいた。ご本尊がかり、法衣を着けた女先生、その前にウエディングドレスの私。「聞

本願寺新報
八月一日号より

ご門徒ニュース

巨大カボチャ栽培合戦



入道町清山新を中心とする五十二戸の農家が、豊さ目・を越える地産用力カボチャのサイズを競って育てている。楽しむことが目的で、仕上げの収穫を迎えた八日、県新川農業改良普及センター職員を講師に招き、ほ場めぐりと勉強会を開いた。

栽培は十二戸の農家が参加して昨年から始めた。評判が良かったことから今年には「あらせ野巨大カボチャグループ」を結成して参加を呼び掛け、地区の農家四十人や同所の知的障害者施設・新川むつみ園のほか、宇奈月町と魚津市、富山市からも参加があった。

世話役の鬼原六郎あらせ野農協組合長が四月二十日に種をまき、五月中旬に苗を参加者に配布。参加者は同組合水稲共同育苗施設やそれ



(北日本新聞から)



それぞれに
病を持てる人達の
いまひそやかに
病舎は眠る

前坊守は、この夏の猛暑で体調をくずし、富山の病院に検査入院となりました。比較的健康だった為、周りがいささか慌てています。



三十一日 除夜会

三〇日 もちつき

二九日 米とき

二〇日 音沢報恩講

一六日 浦山お講

一四日 清掃奉仕

一三日 下立愛本報恩講

一〇日 聞法会

九日 下村報恩講

六日 大橋・下村報恩講

五日 赤田報恩講

二日 愛本新・中ノ口・

一日 下立愛本お講

一日 仏教婦人会総会

二日 愛本新報恩講

三日 愛本新・中ノ口・

五日 大橋・下村報恩講

六日 赤田報恩講

九日 下村報恩講

一〇日 聞法会

一三日 下立愛本報恩講

一四日 清掃奉仕

一六日 浦山お講

二〇日 音沢報恩講

二九日 米とき

三〇日 もちつき

三十一日 除夜会



十二月

報 恩 講

十月十九日、二十日

布教 発願寺若院 川崎 順正師

「ほんこさま」は宗祖親鸞聖人の「ご法事。浄土真宗の門徒にとつて最も大切なご法要です。必ずお参りください。」

空 華 忌

十一月四日 午後一時半 お逮夜

午後七時 お初夜

五日 午前十時 ご満座

講師 行信教校長 利井 明弘先生

善巧寺の第十一世、明教院僧鎔さまを慕つて善巧寺へお参りくださる方が未だに絶えません。今年のご講師は利井明弘先生、北陸ではなかなか聞けない先生です。どうかどうかお参りください。



釈俊之七回忌法要
釈隆弘十三回忌法要

記念講演 利井 明弘先生

十一月五日 午後一時半
ごえはんわかはんを偲びながら、お聴聞して生かされて生きる喜びを味わいましょう。

『ほんこさん』まわり

十月十五日魚津から

年に一度のほんこさま、大切にお勤めいたしましょう。お仏壇は念入りにお掃除をしてよいけいな物がないうように。赤いろうそく、お香、お花、聖典、式章、お念珠を用意しましょう。ご一緒に親鸞聖人の『お正信偈』をよみ、法話とご文章を聞きましょう。

善巧寺門徒会費は今年も九千円です。

*記念事業懇志未納の方は今年度中にお願ひします。

報恩講演準備

十月五日八時半 清掃奉仕

十日八時半 お道具磨き

十七日八時半 米とぎ

十八日八時半

お華東・掃除

空華忌準備

十一月一日八時半 米とぎ

二日八時半

お華東・掃除

越冬清掃奉仕

(雨天順延)

十二月十五日 午前八時半

仏教婦人会総会

十二月一日 午後一時

お勤め・法話・総会

*各地区から必ずご参加ください。地区役員は参加人数をお知らせください。

*今年度の仏婦会費は当日までにお納めください。

ご寄進

輪島の田中もと子さんが輪島塗のお膳を二十脚ご寄進くださいました。美味しくおいとお精進料理を輪島塗の漆器で楽しんでいただけたらとメニューを思案中。お楽しみに。



合 掌

猛暑の夏、照行寺若院巧照キャプテン率いる富山別院野球チームが全国優勝しました。

* * *

暑い夏の盛り、武生に嫁いだ有花が腎臓の手術。その退院が済まないうちに前坊守の突然の入院。その間、津市を含め三つの公演を終えるや、総代を長年お務めくださった沢田最一さんご逝去の報が入りました。人生にはいつなんどき何が起るかわかりません。おみのりに遇う大切さをひとと感じた夏でした。

* * *

聞法の秋、どうかお聴聞してください。空華忌には利井明弘先生がお見えになります。

